



第311号 ・2021 年7月2日発信

【Doshisha-now】 No.001

～ サイエンスコミュニケーター ～

■なぜ、同志社人として、誇りに思えることなのか？

・同志社大学は、中期的にどのような大学にすべきかを考えて、「VISION2025」で公表・宣言している。その第1項に「学びの形の新展開」がある。将来を見据えて、どのような学びを提供すべきかを考えている。

その具体策は、いくつかあるが、松岡敬前学長が強調されてきた「文理融合教育」がある。文系と理系の壁を越えることである。世の中の事象は、既に文理と言う概念を超えていることが多くある。

・その変化に大学は、対応できてこなかったが、同志社大学では具体的な制度を作って、既に前進している。それは、「副専攻」という制度である。入学した学

科での専門教育とは別に、学びの範囲を広げ、特定のテーマを深めることができる制度だ。

「副専攻」には、他の学部、学科の科目を集中的に履修できる「学科型副専攻」と学部、学科の枠を超えて学際的に学ぶ「横断型副専攻」がある。

・もう一つ、「文理融合」いう視点での人物養成を行っているのが「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」である。社会は複雑化し、かつ、科学分野の進展は急速である。その最先端の専門的な科学情報を翻訳する人、伝え手なくして、内容が正しく伝わらない。

・同志社大学では、このような科学分野で起こる社会問題を正しく読み解き、解説できる人材を養成する、サイエンスコミュニケーターを養成する「副専攻」を設置してきている。特徴は総合大学の中での設置だから、創造的なカリキュラムが組めることだ。目玉は、佐藤優教授（同志社大学特別顧問）の登場でしょう。

・2016年にこの副専攻を立ち上げ、サイエンスコミュニケーション教育を推進しているのがキーパーソンの野口範子先生（生命医科学部医生命システム学科教授）で、今もリードされている。

・具体的な内容は、つぎの動画をご覧ください。この動画は、学生が主体的に創作したモノです。自分たちのことを分かりやすく、伝えているところは、流石、言行一致だと妙に感心しました。

(文責：多田直彦)

<https://youtu.be/D4-h7GZC2ql>

なお、ユーチューブにも情報をアップしております。

これは学生ではなく学校側が管理しているものです。

<https://youtu.be/D4-h7GZC2ql>